

## 会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県歴代宝案編集委員会
日時	平成29年(2017)7月7日(金)15:00~17:00
場所	沖縄県公文書館 会議室
出席委員名	赤嶺守・生田滋・井上秀雄・上里賢一・金城正篤・高良倉吉・田名真之・都築晶子・西里喜行・濱下武志・夫馬進
議題及び報告事項	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 訳注本の進捗状況と問題点</p> <p>(2) 『歴代宝案』校訂本全15冊刊行記念シンポジウムについて</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成28年度の刊行物</p> <p>(2) 平成29年度予定刊行物</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 平成29年度中国第一歴史档案館との交流事業(招聘)について</p> <p>(2) 第12回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム(北京開催)について</p>
議事の概要	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 訳注本の進捗状況と問題点 校訂本・訳注本の進捗状況を報告。訳注本の読み下しの問題点「繳／存(存送)」について、赤嶺委員から「淡新档案」等の事例や「歴代宝案」の詳文にみえる「繳／存(存送)」の読みについて、文書の収発経路を示しながら、改めて「繳す／存す(存送す)」の読みに対する理解が述べられた。これにより「繳せ」の読みについては、再度検討して、正しい読みを読み改める方向で検討することとなった。それ以外の訳注本の読みについては、それぞれの担当者の理解に任せてほしいとの意見は出たものの、今後、現代語訳を考えたときに、編集委員会での読みの統一が必要との意見も出て、編集委員会や作業部会で継続的課題として検討していくことになった。</p> <p>(2) 翌7月8日の『歴代宝案』校訂本全15冊刊行記念シンポジウムの進行要領が委員・事務局で確認された。</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成28年度の刊行物について報告。</p> <p>(2) 平成29年度予定刊行物について報告。</p> <p>※『歴代宝案の栞』(新訂版)はこれまでの「歴代宝案」編集事業の成果を反映させたものとする。また『歴代宝案』校訂本全15冊刊行記念シンポジウムの報告集の出版も検討していることを報告。</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 中国第一歴史档案館との交流事業(招聘)について 招聘期間は平成29年11月15日(水)~19日(日)。中国第一歴史档案館より胡忠良副館長・李健民満文処整理科科长を招聘する。その間の11月17日(金)に歴代宝案編集委員会(第2回作業部会)を開催する。</p> <p>(2) 第12回琉球・中国交渉史に関するシンポジウムについて 平成30年度北京で開催予定であるが、今後、沖縄側の発表者を、11月の歴代宝案編集委員会(第2回作業部会)で検討し、来年1・2月の早い時期には決定していきたいと事務局の要望を伝えた。</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	教育庁文化財課
問い合わせ先	史料編集班 担当:外間みどり 電話 098-888-3939
備考	